学　級　通　信（木部中３年部）

サ　ク　ラ　サ　ク

～2009年春、満開のサクラのもとで卒業しよう～

第３５号

２００８．１２．１０

「人権」を考える

60年前の今日、すなわち1948年12月10日、国際連合の総会において「世界人権宣言」が採択されました。日本においては、この日に先立つ１週間を人権週間として各方面で人権啓発についての活動がおこなわれています。木部中学校でもこれにあわせて、授業や人権集会をおこなうとともに、保護者のみなさんにもそのようすを公開しました。

３年生では「もう一度『部落差別』から人権について見つめ直そう！」と思い、被差別部落にくらす女性たちが経験した結婚差別を通して考えを深めました。「３年生には映像資料がいいのでは？」との思いから、NHK『その時歴史が動いた』の中から「人間は尊敬すべきものだ～全国水平社・差別との闘い～」を一部編集し、VTR で視聴しました。この中で結婚差別を経験する２人の女性は、相手の男性からそれぞれ同じ内容の言葉を投げかけられます。「血がけがれている。（にごれている。）」という言葉です。授業の中ではこの「血」というキーワードを取り上げ、生徒たちと考えていきました。生徒たちは「被差別部落の人々の血がけがれているわけではない。」と口々に相手の男性の言葉を否定します。にもかかわらず「なぜ男性たちは被差別部落の人々の血がけがれている（にごれている）と声にしたのだろうか？」という私の問いに、生徒たちからは「自分もまきこまれるから」や「先祖からいわれていたから」などの言葉が返ってきます。実はこれらの言葉には「主体性」がないのです。つまり「血がけがれている。（にごれている。）」という言葉は、それを口にした男性が「世間体」に負けて声にしたものだと私は思うのです。「世間体」というのはなかなか手強い相手ではありますが、私たちの中から少しずつであっても排除していかなければなりません。授業の最後には、結婚差別を受けてから約50年後のこの女性のようすも視聴しました。この中で女性は、「差別は損の分け取り」という言葉を使います。結婚差別を受けたこの女性の心には深い傷が残ります。そして、この男性との間に身ごもった子どもも貧しさの中で亡くなっていきます。さらに、この男性は生まれてきたわが子さえ差別し、抱けなかったことを後悔します。私はこの「差別は損の分け取り」という彼女の言葉がとても印象に残りました。

以下は、授業の中で生徒たちが考えた人権標語です。

- 気づいてよ　笑顔の奥の　その涙
- ありがとう　一人一人が　笑える日
- 世間体に　負けない心を　作ろうよ
- いじめは　一生残る　心の傷